

まちのわだいの

伯耆町で再会 沖縄の友だちと

〜沖縄県読谷村・伯耆町教育交流〜

沖縄県読谷村渡慶次地区よみたんせんとけしの交流団15人が、2月9日(金)から12日(月)まで伯耆町を訪れました。

伯耆町と沖縄県読谷村渡慶次地区は、平成26年に教育協定を結び、交流を行っています。昨年夏に伯耆町の子どもたちが読谷村に訪問しており、今回は読谷村の子どもたちを伯耆町に招いての交流です。

今回の交流では、スキー交流、文化交流、パートナーの家庭での民泊などを行いました。文化交流では、沖縄の伝統的な踊りや伯耆町の太鼓の披露、各地域のクイズ大会で盛り上がり、お互いの地域の文化に触れ合いました。今回の交流をとおして、夏に築いた友情をより一層深めることができました。



交流の様子

VRで農作業事故を疑似体験

〜県西部地域農作業安全研修会〜

2月9日(金)に、農村環境改善センターで農作業安全研修会が行われました。

この研修会は、農機具使用時の事故や、農作業中の熱中症等の事故が毎年発生していることから、農業者に事故を未然に防ぐ方策を知ってもらおうと鳥取県西部地域農作業安全・農機具盗難防止協議会が開催したものです。

当日は、町内の農業法人や生産組合などから5団体14人が参加し、仮想現実(VR)を使って農作業事故を体験したり、参加者それぞれが体験したヒヤツとしたことなどを話し合ったりしました。事故の疑似体験では、参加者がVRゴーグルを装着し、仮想現実で刈り払い機やトラクターなどで発生する事故を体験。体験後に事故を振り返り、事故発生の要因や未然防止策を学びました。

農事組合法人伯耆の郷の加川さんは「いつもの作業の中にも危険があった。今回体験したような事故を起こさないよう、事故防止に努めたい」と話しました。



農作業事故を疑似体験

一部の歴史を感じる特別展

〜一部公民館 たたらまつり〜

二部地区恒例の「たたらまつり」が2月24日(土)〜26日(月)に一部公民館で開催され、多くの人で賑わいました。

たたらまつりでは、特別展として地域の歴史や伝統行事に関する展示を毎年行っています。今年度は、「拓志の像が見つめた二部谷」時代の流れのなかで」と題し、拓志の像(レプリカ)とともに二部地区の教育史年表や家財道具などが展示されました。会場の中央には昨年掘り起こされた50年前のタイムカプセルと内蔵品も同時展示。教科書やカバンなどの内蔵品を見た60代男性は、「とても懐かしい。子どもの頃の事が鮮明に思い出される」と感慨深そうに話しました。

そのほか、来場者にぜんざいがふるまわれたり二部地区の農産物と加工品の販売が行われたりと、地域のみなさんが集うあたたかなまつりとなりました。



タイムカプセルの展示